

機関番号：22401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19592577

研究課題名（和文） 認知能力を見るアセスメントツールについての研究

研究課題名（英文） Instrument Development to measure abilities of people who are afflicted with Alzheimer's disease or related dementias

研究代表者

山下美根子（YAMASHITA MINEKO）

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：60301850

研究成果の概要（和文）：認知症をもつ高齢者の残存能力測定尺度の開発を行ってきた。尺度の妥当性と信頼性について検証を行うため、県内・県外の高齢者施設の居住者およびデイケア通所者を対象にのべ100人を測定した結果、尺度の信びょう性が確認できた。その調査結果を洋専門誌にて発表した。また認知能力が低下していると見られる精神疾患のある対象についても検証を行った。診断別に統合失調症、うつ病・躁鬱病、薬物依存症、これら3つの診断を受けた75人を対象について比較した。その結果、統合失調症をもつ対象の得点が最も低く、うつ病・躁鬱病、薬物依存症の順位で向上した。さらに、地域病院の一般病棟の入院患者149人を対象に測定した。平均年齢は76歳で、平均年齢76歳以上と76歳以下の2群を比較したところ、2者間に有意な差が見られた。換言すれば、76歳以上の対象に認知能力の低下が見られた。この結果から、一般病棟の入院患者76歳以上の患者に関わる際、特別な配慮やケア上の工夫の必要性があることが示唆された。認知症高齢者は自分の認知能力の欠陥を補うため、情緒面が発達しているといわれる。そこで、認知症をもつ80代後半の女性にナラティブアプローチ法を用いてインタビューを試みた。その結果、本人にとって印象深いと思われた過去の体験について繊細な部分に至るまで回想しそれらについて自分の思いや考えについて表現でき、新たな発見や意味づけができた。このように量的方法のみでは解明できなかったことを質的方法を用いることで、対象が他者との関わりについて振り返り、その結果自己・他者理解ができたことは、この分野の研究に新しい知見として貢献できたと考える。

研究成果の概要（英文）： We have developed a Japanese version of the Abilities Assessment Instrument (AAI) that was developed by nurses in Canada. With their full permission and the publisher's (Springer, NYC) permission, we have translated their book (163 pages) into Japanese (174 pages). In order to examine the reliability and validity of the Japanese version of the AAI, we administered the instrument on approximately 100 people who resided in nursing homes or who attended seniors' day care centers. As a result, the translated instrument promised to be useful in learning programs with this population, and may have value as a screening tool. In another study, we looked at 3 groups of people (N=75) who were diagnosed with schizophrenia, uni- or bi-polar depression, and substance abusers. The 3 groups of subjects were compared. The result of the study showed that there were statistically significant differences between the groups in that those who had schizophrenia scored the least, and that the substance abusers scored the highest. We also looked at a non-psychiatric population (N=149), patients who were admitted to medical, surgical, or rehabilitation units. The sample was divided into 2 groups based on the average age of the sample that was 76 years old. The findings of the study showed that there were statistically significant differences between the 2 groups. That is, those who were 76 years old or over scored less than those who were less than 76 years old. Finally, using qualitative approach, the researcher interviewed an elder woman who had dementia. A narrative approach used was appropriate in that the informant was able to narrate her

story; she delivered her story so eloquently that I as a researcher was able to glimpse into her life passage up to that time. The findings of the study shed light on areas that were so important and significant that care plans should be made in accord with the findings from the interview. In answering to the questions asking to narrate her life passage, the informant revealed her inner thoughts and feelings, which were related to and later corroborated with people who interacted with her.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 19 年度	800,000	240,000	1,040,000
平成 20 年度	600,000	180,000	780,000
平成 21 年度	700,000	210,000	910,000
平成 22 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：認知症、残存能力測定尺度、高齢者、

1. 研究開始当初の背景

我が国の加速する高齢化社会において、認知症をもつ高齢者は本人もとより家族、ひいては社会の健康課題である。認知症といえども潜在する能力を見極めて強みの部分を引き出すことにより衰退した部分の補完ができる。このように認知症をプラス思考で捉えて「できる部分は何か」を見ることで個別性のあるケアが可能となる。認知症をもつ高齢者が出来る部分とその程度についてアセスメントするこの残存能力測定尺度の開発は、従来の負の部分を見るツールとは異なり画期的と考える。

2. 研究の目的

認知症をもつ高齢者の残存能力を測定して彼らのケアプランに活かすことを目的とする。

3. 研究の方法

カナダの看護師により開発された Abilities Assessment Instrument (略して AAI) の日本語版の開発を行った。関東甲信越における複数の高齢者施設の入居者およびデイケア通所者を対象に測定した。その結果、本尺度の信頼性と妥当性が確認できた。

4. 研究成果

AAI 日本語版の妥当性および信頼性が検証出来た。認知症だけでなく、本尺度を

精神疾患のある対象に行った結果、診断特有による違いが確認できた。さらに、本尺度を一般病棟の入院患者を対象に行った。この集団である平均年齢 76 歳を境に彼らの認知能力において顕著な差が見られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

Yamashita, M., Kubota, T, Fuchita, E, Yokoyama, K, Hayashi, H, Okamoto, S, Sano, E, Matsuo, A, Shimasue, N, Watanabe, T, Kawashima, R, & Sugimoto, K. A nursing tool validated as an effective measure over MMSE and FAB in dementia. *International Nursing Review*, 54(2), 179-181, 2007.

山下美根子、久保田富夫、淵田英津子、横山恵子、林裕栄、岡本佐智子、佐野恵美香、松尾彰久、嶋末憲子、渡邊智子、川島隆太、杉本幸司 認知症高齢者の学習介入後における残存能力の変化についての研究 *インターナショナルナーシングレビュー*、31(1), 77-84, 2008.

山下美根子 知覚・認知障害をもつ患者へのかかわりについて：痴呆症と統合失調症をもつ患者の場合 *看護実践の科学*、31, 68-73, 2005.

山下美根子 認知症高齢者の終末期ケアのホーム・ホスピスの在り方と実践モデルの紹

介 臨床看護、36,842-845, 2010.

山下美根子 ナラティブ・アプローチを用いたカナダの高齢者のライフ・ストーリー・スクリプト 看護実践の科学、35, 84-88,2010.

〔学会発表〕(計 2 件)

Yamashita, M Personhood in Dementia Assessment. The Eighth International Interdisciplinary Conference-Advances in Qualitative methods, Poster session Banff, Alberta, Canada. September 2007.

山下美根子 精神看護臨地実習における認知能力アセスメントツールの開発について 第 18 回日本看護学教育学会学術集会、つくば市、2008 年 8 月。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山下美根子 (YAMASHITA MINEKO)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：60301850

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし